

芸術学部 芸術学科 デザイン領域

教授 扇 千花

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
<p>◎教育方法の実践例 デザイン演習Ⅱ-2 産業テキスタイル</p>	2016. 4～7	<p>大学近郊のテキスタイル関連工場の見学や、デザイナーによるレクチャーの聴講から、持続が難しくなっているテキスタイル産地の問題点を知り、デザインの力によって産地を活性化するにはどうすれば良いかを考察する。</p> <p>名古屋帽子：名古屋帽子協同組合からの依頼で、9月に行われる「尾張名古屋の職人展」帽子ファッションショーに出品する帽子のデザインと布の作成を行い、ファッションショーには学生が自作を被って出演し、名古屋帽子を市民にアピールする。</p>
<p>デザイン実技Ⅲ-3 産学連携有松絞り産地・名古屋帽子</p>	2016. 9～2017. 1	<p>産業テキスタイルの授業に引き続き、テキスタイル産地の活性化を実技を伴って考察する。</p> <p>有松絞り産地：次年度6月に行われる有松絞りまつりに向けて、産地で学生自身がデザイン～生産～販売までを一貫して体験する。販売ではエンドユーザーと交流することから自分の商品についての意見を聞き、デザイン力の向上を目指す。</p> <p>名古屋帽子：「着物に似合う帽子」をデザイン、工場で生産、SOU・SOU若林剛之氏による講評を受け、最終的にはSOU・SOUでの商品化を目指す。</p>
<p>◎作成した教科書・教材 デザイン演習Ⅱ-2 産業テキスタイル</p>		<p>学生が産業テキスタイルの専門家話を聞き、産業の現場に身を置くこと自体を教材とする。</p> <p>林八百吉(株)デザイナー 松井朱美氏 瀧定名古屋(株)デザイナー 木佛寺望氏 ファッションキュレーター 宮浦晋哉氏 帽子工場 (有)森安、(株)ワールドハット 名古屋帽子協同組合 有松・鳴海絞り会館 有松絞り工場 (株)張正、(有)久野染工場 尾州工場 岩正毛織 (有)カナーレ テキスタイル・マテリアルセンター</p>
<p>・デザイン実技Ⅲ-3 産学連携有松絞り産地・名古屋帽子</p>		<p>学生が書いた指示書をもとに、工場で専門家とのやりとり自体を教材とする。</p>
<p>◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価</p>		<p>有松絞り「エンドユーザーに直接販売することで、自分の制作の実感が得られ、意見が役に立った。」学生による授業評価結果</p> <p>名古屋帽子協同組合との取り組みは5年目となり、「お互いの歩み寄りにより、より良く継続している」との評価があった。「着物に似合う帽子」では、16点中1点が商品化決定。このプロジェクトで5点目の商品化となる。</p>

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の 別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
Artist in residence		2016. 9. 1～ 13	オーストラリア ウーロン ゴン大学	ウーロンゴン大学テキスタイルコースから招聘され、大学ギャラリーでの作品展示とギャラリートーク、レクチャーを行う。
個展 “many little things”		2016. 9. 7～ 13	オーストラリア ウーロン ゴン大学	枕草子 第144章「うつくしきもの」から着想を得た作品。日本の文化では小さいものをかわいと感じる感受性が平安時代からあり、その感覚をインスタレーション作品で表現した。
レクチャー “Exploring Traditional Textiles for Innovation”		2016. 9. 7	オーストラリア ウーロン ゴン大学	<p>私の作品は、伝統的な紙漉きの技術・素材・文化を現代的に解釈し直し、テキスタイルアートの形式にあてはめたものである。また私は名古屋芸術大学で、大学近郊の伝統的テキスタイルの産地での活性化プロジェクトを進めている。</p> <p>テキスタイルアートと産地活性化プロジェクト。それは一見違った活動のように見えるかもしれない。しかしそれは、「伝統を現代に生かす」というひとつの考えに基づいている。もともと伝統技術は発明されたときは当時の最新技術だった。それらは人々の生活の中から生み出され、育まれ、伝えられてきた。しかし、現代生活の中ではその価値を失い、消え去ったものも少なくない。時代が変わり、それを失うことは人類の文化損失であり、一度消え去った伝統技術を復興するのは容易ではない。伝統的紙漉き技法を使った現代的なテキスタイルアートを作ることは革新であり、伝統テキスタイルを現代生活に合うように変えて、地域を活性化することもまた革新である。</p> <p>ここでは手工芸である日本伝統のテキスタイル技法、素材、文化を、現代の視点から解釈し直そうとするチャレンジを示した。伝統を持続しようとするとき、それをそのまま守るのではなく、時代に合わせてイノベーションすることによって、新しい価値を生み出すことが出来るのである。</p>